

展示資料翻刻(抄) 後期

※本展出品資料の翻刻の一部を紹介します。

17 明版法華經

〔奥書〕寄進 甲州身延山久遠寺／
從四位下武田大膳大夫兼信濃守源
晴信(花押)
天文十九庚戌十一月念四日

29 日蓮聖人曼荼羅本尊(8月15日)

〔右側〕佐渡国法花東梁阿仏房彦如
寂房日滿相伝之

34 日蓮聖人曼荼羅本尊

〔左側〕文永十二年太才乙亥卯月日

52 日蓮聖人書状(下山御消息断片)

へき人々も同意したるとぞ聞へし、
夜中に日蓮か小庵に数千入押寄て
殺害せんとせしかとん、如何したり
けん、其夜の害も脱ぬるとん、心を
合せたる事なれハ、寄たる者科なく
て、大事の政道を破、日蓮か生たる
不思議なりとて伊豆国へ流れぬ

58 佐渡始頭本尊写

〔右上より〕(朱字)五十二歳佐渡
此本ハ宗祖発軫之大漫荼羅也／文
永八年太才辛未九月十二日蒙御勘

氣遠流佐渡国同十年太才癸酉七月
八日凶之此法華經の大曼陀羅仏
滅後二千二百一十一年一閻浮提之
内未曾有之日蓮始凶之如来現在
猶多怨嫉況滅度後法花經
弘通之故有留難事仏語不虛也
〔左側〕絹地巾二尺六寸一分長五尺
八寸二分外沙統之 裏書慶長十四
己酉仲夏日遠

59 日蓮聖人書状(国府尼御前御書)

(第一・二紙)

阿仏房の尼こせんよりせに三
百文、同心なれハ此文を二人し
て人によませてきこしめせ、
単衣一領、佐渡国より甲斐国波木井
郷内の深山まで送給候了、法華經
第四法師品云、有人求仏道、而於一
劫中、合掌在我前、以無數偈讚、由
是讚仏故、得无量功德、歎美持經者、
其福復過彼、等云云、文の心ハ、釈
尊ほとこの仏を三業相応して一中劫
か
二
間ねんころに供養し奉りも、末代
悪世の世に法華經の行者を供養せ
ん功德ハすくれたりとかれて候、
まことしからぬ事にて候へとん、
仏の金言にて候へハ、疑へきにあら
す、其上妙樂大師と申人、此の經文

を重てやわらけて云、若毀謗者頭破
七分、若供養者福過十号、等云云、
釈の心ハ、末代の法華經の行者を供
養するハ十号具足しますます如来
を供養したてまつるにも

61 日蓮聖人書状(故阿仏房尼御前御返事)

(第五・九紙)

五
二字、くくに五天竺・十六の大国・
五百中国・十千の小国・無量の粟散
国の大地・大山・草木・人畜等をさ
まれるかことし、譬へハ鏡ハわつか
に一寸二寸三寸四寸五寸と候へと
ん、一尺五尺の人をもうかへ、一丈
二丈十丈百丈の大山をもうつすか
ことし、されハ此の經文をよみて見
候へハ、此の經をきく人ハ
六
一人もかけず仏になると申文なり、
九界六道の一切衆生各々心々かわ
れり、譬へハ二人三人乃至百千人候
へとん、一尺の面の内しちににたる
人一人もなし、心のにさるゆへに面
もにす、まして二人十人、六道九界
の衆生の心いかなかかわりて候ら
む、されハ花をあいいし、月をあいいし、
すきをこのみ、にかきをこのミ、ち
いさきをあいいし、大なるをあいいし、
七

いろくくなり、善をこのみ、悪をこ
のミ、しなくなり、かくのことく
いろくくに候へとん、法華經に入ぬ
れハ唯一人の身、一人の心なり、譬
へハ衆河の大海に入て同一鹹味な
るかことく、衆鳥の須弥山に近て一
色なるかことし、提婆か三逆と羅喉
羅か二百五十戒と同く仏になりぬ、
妙莊嚴王の邪見と舍利弗か正見と
同授記をかをほれり、此即無一不成
仏の
八

ゆへそかし、四十余年の内阿弥陀經
等にハ舍利弗か七日の百万反大善
根ととかれしかとん、未頭真実とき
らわれしかハ、七日ゆをわかつて大
海になけたるかことし、井提希觀經
をよみて無生忍を得しかとん、正直
捨方便とすてられしかハ、法華經を
信せずハ返て本の女人なり、大善も
用事なし、法華經に値すハ
九
なにせん、大悪もなげく事なけれ、
一乗を修行せハ提婆か跡をもつき
なん、此等皆無一不成仏の經文のむ
なしからさるゆへそかし、されハ故
阿仏房の聖靈ハ今いつくむにかを
ハすらんと人ハ疑とん、法華經の明
鏡をもつて其の影をうかへて候へ
ハ、靈鷲山の山の中に多宝仏の宝塔

の内に

63 日蓮聖人坐像

〔台座正面・陽刻〕 江戸
〔台座正面・陰刻〕 □住／鑄工 山城浄桂

〔台座側面・陰刻〕 本願主／伝馬町講中／世話人／日本橋講中／本石町講中／両国東／西講中／神田講中／芝御蓮台講中／小石川御日傘講中／新吉原講中／芝口講中／駒込講中／右九ヶ所／世話人連名／木具屋平治郎／萬屋万右衛門／糸屋米八／千歳七五郎／松本甚蔵／亀島屋彦四郎／大黒屋龜右衛門／松村萬吉／市口清五郎／萬屋仁兵衛／生麦屋萬吉／乗物屋八兵衛／橋屋長蔵／江島屋平吉／江戸惣講中銅板施入面々／谷津氏／堅尊院

64 日蓮聖人書状(富木殿御書)

けち申すはかりなし、米一合ももらす、かししぬへし、
此御房たちもみなかへして但一人候へし、このよしを御房たちにもかたらせ給

十二日さかわ、十三日たけのした、十四日くるまかへし、十五日をみや、十六日なんふ、十七日このところ、い

またさたまらずといえとん、たいしハこの山中心中に叶て候へハ、しはらくは候はんすらむ、結局ハ一人になて日本国に流浪すへきみにて候、又たちととまるみならハけさんに入候へし、恐々謹言、
十七日 日蓮(花押)

ときどの

66 報恩抄

況滅度後と申て未来の世にハ又此の大難よりもすくれてをそろしき大難あるへしととかれて候、仏たにも忍ひかたかりける大難をハ凡夫ハいかてか忍ふへき、いわうや在世より大なる大難にてあるへかんなり、いかなる大難か提婆か長三丈広一丈六尺の大有阿闍世王の醉象にはすくへきとハもへとん、彼にもすくへく候なれハ、小失なくとん大難に度々値人をこそ滅後の法花経の行者とハしり候わめ、付法蔵の人々ハ四依の菩薩、仏の御使なり、提婆菩薩ハ外道に殺れ、師子尊者ハ檀彌羅王に頭を刎られ、仏陀密多・龍樹菩薩等ハ赤幡を七年十二年さしとをす、馬鳴菩薩は金錢三億かかわりとなり、如意輪師ハをもひしにに死す、此等ハ正法一千年の内なり、像法に入て五百年、仏滅後一千五百年と申せし時、漢土に一人の智人あり、始は

智顛、後にハ智者大師とかうす、法花経の義をありのまゝに弘通せんと思ひ給しに、天台日前の百千万の智者しなく、に一代を判せしかとん、詮して十流となりぬ、所謂南三北七なり、十流ありしかとん、一流をもて

74-1 日興上人曼荼羅本尊

〔左下〕 徳治二年十月十三日 日興(花押) 書写之

75 日静上人像

〔右上部〕 当山第二開山日静聖人
〔左上部〕 正安三辛丑歳六月廿二日

78 題目額

〔右脇書〕 天下泰平 国土安穩
〔左脇書〕 後五百歳中 広宣流布
法悦

81 日増上人尊文写

真俗江可申渡条々事
一、当寺者於相州名瀬昭師最初之御草創也、為北国勸化移寺於当国然則当寺與浜土左右牛角之靈地也、然近年門中初心之僧俗諍両寺之優劣有自讚毀他之過言是儘背遺付之旨先昭師之本意逆罪之至也
一、去秋中末寺円立陀詣彼地曼荼羅懇望之儀本山違背申掛□甚以不謂

事也、浜土門末悞望当寺曼荼羅者幾許乎
一、三月会之節、諸日方者任意可詣浜土出家毛隠居者不苦彼地真俗亦参詣村田故也、但保内之分者真俗共可相詰本山者也
至徳三年丙寅二月二十六日 日増(花押)

寺末中

82 日蓮聖人像ほか三幅

〔三幅いづれも〕
〔右下部〕 明暦元年乙未七月九日吉慶
〔中央下部〕 日鋭(花押)
〔左下部〕 寄進□□

87 日印上人曼荼羅本尊

〔右下〕 妙山日余授与之
〔左下〕 嘉暦元丙寅七月五日

88 日陣上人曼荼羅本尊

〔中央下〕 生年七十七才
〔左下〕 応永二十二年六月八日

91 日現上人像

〔右下部より〕 愚影四十一寿像也中納言日珠為願主塘崎景良筆也／日現(花押)
〔左下部〕 明応十稔辛酉正月廿六日

96 日遠上人曼荼羅本尊

〔右側〕慶長十二年十一月朔日
〔左側〕〔抹消〕

97 日蓮上人曼荼羅本尊

〔右側〕明治九年第六月当国帰省之
砌於当山図之
〔中央〕東京法雲山仙寿院 日蓮
〔花押〕

〔左側〕北越蒲原郡新発田町久栄山
第三十四世日喜上人応需授与之

102 棟札

〔永祿元年〕

〔下部〕天文年中兵乱荒□□□再
興之住持法照院日□北陸道越後国蒲
原郡金津保横河間 長光山本住寺御
堂之棟札也
永祿元龍集戊午曆佑□鬼宿□合日敬白

104 日向上人像

〔台座天板裏墨書〕堀河四条下ル町
西町／大佛師／大内蔵介作／〔異
筆〕高祖大士／天明六歲丙午九
月吉辰／再興 京都柳馬場松原下
町／大佛師職林如水敬白書

105 鰐口

〔表外区左〕永徳二壬戌正月日
〔裏外区右〕勸進〔足十楚〕部永光

109 日朝上人曼荼羅本尊

〔右側〕末法一乘行者／為息災延寿
／所願成就奉／書写之者也
〔左側〕明應二二年乙卯正月日／廣
宣流布大願圓滿／求法比丘日憲／
蓮光房授与之

113 棟札

〔右下部〕永祿元年戊午季夏吉日
〔左下部〕上葺成就之砌誌之

114 久遠寺文書

〔徳川家康書状〕

当表在陣為見廻使僧并蠟燭到來祝着
候、猶全何弥可申候、恐々謹言
久遠寺 家康〔花押〕

116 遠光寺文書

〔日新上人判物〕

其寺住持職之事、被仰付之上者、如
前々可為河東之物導師候、因茲每事
佛法之仕置可然様可有下知者也、仍
如件、
天正十七己丑拾月十四日 日新〔花押〕
遠光寺

〔日要上人判物〕

其寺住持職之事、被仰付之上者、如
前々可為河東之物導師候、因茲每事

佛法之仕置可然様可有下知者也、仍
所先軌如件、
元和第八壬戌拾月十五日 日要〔花押〕

遠光寺

〔日蓮上人判物〕

為新師要師兩代御書出、其寺者可為
河東之物導師之旨被仰定候上者、弥
如先規無相違專住道意願人情万緒可
有下知候者、若於私被存違慮候者、
忽可為先師違背者也、仍準繩旧規如
件、
寛永七年歲次庚午年十月十六日 日蓮〔花押〕
遠光寺

117 日重上人曼荼羅本尊

〔右側〕弟子／俊孝／日豫／授与

〔左側〕天正十八庚寅六月吉辰於本
満寺妙院書写之

118 日乾上人曼荼羅本尊

〔右側〕春好日豫授与之

〔左側〕慶長五年庚子二月廿一日
119 日遠上人曼荼羅本尊
〔右側〕大日本国甲州山梨□鵜飼山
遠妙寺常住
〔左側〕慶長萬年

122 日興上人曼荼羅本尊

〔右側〕甲斐国蓮花寺式部房 源交十

三年
〔左側〕嘉曆二年五月十三日

125 日遠上人坐像

〔像背面墨書〕

法華寺／日通作／養珠院妙紹／敝師
／之奉納之寶藏／南無日遠聖人肖像
寛永十九年壬午三月五日寂

〔像左袖背面墨書〕

日蓮〔花押〕

128 棟札

〔表面〕于時慶安第三庚寅年
「」當堂建立大願主 紀州
大納言源頼房卿

〔裏面〕大日本国内甲州巨摩郡大野
山本遠寺者延山二十二祖池上十六
嗣法 工匠棟梁 中村藤吉郎藤原
宗□／心性院日遠聖人開關勝地累
年修行靈窟也／ 粵桑嶋又兵衛
藤原重利奉行／東照宮大権現御息
紀伊亜相源頼宣卿水戸黄門源頼房
／右川上小左衛門尉重時兩卿之母
堂養珠院日心大禪尼為宗門相統外
護而帰依彼師年久田中甚左衛門尉
忠次故以當山為菩提道場依之長子
頼宣公欲應賢母志念曾訴家光大將
軍寄附田園以備萬代寺供令亦投産
財新建立當堂至孝住持禪門〔前住
貞松／後住當山〕常寂院日近謹誌

絶類良奇哉 孝家長富 子孫栄昌
二世願満 心池清涼 行年三十七
歳
伽藍久住 不退練行 法水不盡
利生無量 于時慶安第三二歳庚寅
天中秋上澣三日

163 小半鐘

〔縦帯1〕 甲州内船村正住山内船寺
什宝

〔縦帯2〕 文和元壬辰年三月十五日
〔縦帯3〕 五代本学坊日行記之
〔内面〕 薬味／陳皮二百五十目／芍
薬二百目／香附子二百目／忍冬二
百目／厚朴百五十目／肉桂百五十
目／当皈百五十目／宿砂百目／紫
葉百目／白朮百目／川骨五十目／
生姜五十目／大黃五十目／枳実五
十目／甘草五十目／丁子五十目／
檳榔子五十目／黄芩百目／石膏三
百目／藿香二十目／〆二十味

164 妙本寺文書

指上申寺屋敷之事

一、久田村妙本寺之義者日蓮大聖人
御腰掛之寺古跡ニ而候とも先年乱国
之時分炎焼仕致退転候処、於村田日
銳聖人御取立相願入屋敷之施主代村
中一間より一人ツツ檀那に立可進候
と改之、幸ニ相叶候ニ付而、右之寺

屋敷山共ニ高老石壹斗六升外ニ山高
式朱之地を境をち一極相渡し候処実
正也、以来おいて誰人何様之義申候
共、山屋敷之内老歩之処成とも少も
相違申間敷候、為後日所之者共連判
仕証文指上申候、仍如件
寛文三年癸卯五月三日

田村／太郎右衛門(印)／四

郎右衛門(印)／弥右衛門
(印)／三郎左衛門(印)／

四郎左衛門(印)／彦左衛門
(印)／五郎左衛門(印)／

小左衛門(印)／二郎左衛門
(印)／与二右衛門(印)／

庄右衛門(印)／吉十郎(印)
／市兵衛(印)／徳兵衛(印)

村田妙法寺／日銳聖人 様

165 日蓮上人倚像

〔像膝裏〕 南無妙法蓮華経 日蓮大
菩薩／奉再興之志者为二世／安楽
也施主出雲崎町題目之／一結敬白
同町小里徳兵衛内方／敬／元禄七
甲戌八月吉日／佛師京都住薪主／
願主日住

〔展示期間〕

前期(令和三年七月一七日)

令和三年八月九日

後期(令和三年八月一日)

令和三年八月二九日